

公民館クラブ紹介 ⑰

多忙な毎日の中で、私たちは、ともすると精神的なゆとりを失いがちです。

こんなとき、一服のお茶は心に安らぎを与えてくれます。

茶道というと、特殊で日常生活とはあまり縁のないもの——というイメージがあるようですが、その心は「和敬清寂」であり、私たちの家庭生活の基本として、平和な家庭を創造するために欠かすことのできない精神であると言えます。

お茶を点てる時、お点前をただ見せるだけとして意識するのではなく、相手に心から美味しく一碗の茶を捧げるという心。和して他人を敬い、清らかな心で——という意味のようです。

日本独自の文化

茶道クラブ

れると言われます。

茶道で身についた礼儀作法は、すばらしい他人関係を創ることができます。

このように、茶道は古くから伝わる日本独自の文化として、私たちの生活に深くかかわっているようです。

さて、公民館の茶道クラブ員は、現在女性8



1回、2回 何回まわすの

名、片岡好江先生（東町）が指導にあたっています。

茶室の引き締まった雰囲気の中にも、なごやかさが感じられるクラブで、先生とクラブ員の会話がはずみます。茶道といって、決して身構えるのではなく、自然なふるまいの中に無駄のない洗練された所作、作法が感じられました。

「茶道を習ってから、ものを大切に持つ気持ちや、自然を愛する心が養われました」とクラブ員。今の時代、私たちが失いつつあるものを取り戻してくれるようです。

文化祭には、毎年大勢の人が、クラブ員の催す茶会に訪れています。

活動日は、普段着で稽古できますので、あなたも仲間になりませんか。

活動日 毎月第2第4木曜日

午後1時30分～4時

会費 2千円

お問い合わせは、小池しず

子さん（☎5012）へ。



落葉

「垣根の垣根の曲がり角、たき火だたき火だ落葉たきき……」

落葉というと、幼い日に口ずさんだこんな歌を思いだす人もいると思います。

細長い日本列島のことゆえ、もうとつくに紅葉が終わって、葉が散ってしまったところもあれば、まだ紅葉が始まらないところもあると思いますが、いずれにしても、紅葉はものあわれを感じさせます。

でも昔と違って、最近落葉でたき火をしたあたり、その中で焼きイモを焼いて楽しむことは少なくなりました。

ことに都市化した地域では、うっかりたき火をしたりすると、消防車が飛んで来てしまうことさえあります。

これからは火災の多いシーズン。たき火は、たばこの火、コンロの火を抑えて、火災発生原因の1位となっています。

みなさん火の後始末には、十分注意しましょう。

